

日中友好新聞

府連通信

2008年1月号
日本中国友好協会大阪府連合会
〒530-0013
大阪市北区
茶屋町10-6
阪急北ビル4階
TEL06-6372-8131
050-3413-6491
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail: jcfaj@j
t8.so-net.ne.jp
ホームページ
http://www005.u
pp.so-net.ne.jp
/jcfasaka/

南京事件七十周年記念式典に一万人が集う

紫金草合唱団、南京・上海公演に参加して

大阪府連合会・常任理事 土井一正

(土井一正さんの中国公演レポートは二頁に続きます。藤後博己副会長は合唱団団長として参加しました)

私は今回の紫金草合唱団の中国南京・上海公演(十二月十二日〜十七日)に、その一員として参加した。この合唱団(150

余人)の訪中は六回目で、上海は初めてということだ。

団名「紫金草」は、中国の薄紫の美しい野の花で、日中戦争時に一兵士が日本にもちかえり、平和への思いを込めて各地にひろげられたといわれている。こ

れを合唱朗読構成「紫金草物語」にしたものを、中国で演奏したところ大きな反響を呼び、今回の公演へと続くこととなった。

今年は、南京大虐殺七十周年にあたり、私たちはその記念式典に出席した。国の内外から一万人(日本人は600人)が参加し、当時を思い起こさせる警報が鳴り響く中、式典は厳粛に執り行われた。南京での記者会見には日本のマスコミも二十数社

参加し、この事件への関心の高さを示している。

南京市は城門をくぐるとプラタナスの並木が続く、明代の城壁も見られ、近代化の中に古い都市のたたずまいが感じられる。七十年前に日本軍による大量の虐殺があった、この地にたつて

の関係を発展させる記念館にしたい」との説明があった。館の出口近くの掲示板には「歴史は鏡であり、歴史の教訓を忘れてはならない。戦争を遠ざけ平和を愛し、調和のある世界を作るために奮闘しよう」のことがばで結ばれていた。(二頁に続く)



「你好、日本紫金草合唱団」の一枚が展示されている。館長からは「広い視野で、日中交流の歴史の中で南京事件をとらえ、日中

年頭所感

『南京、南京、南京』

を読んで

日中友好協会大阪府連合会会長

渡辺 武

去る十二月の「日中友好新聞」で仙洞田 英子(せんどうだえいこ)さんの『南京、南京、南京(子育て終わって中国留学の記)』(草の根出版会、〇七年九月刊)の紹介記事を読んだ。

五十歳で初めて大学へ入学して日本近代史を学び、卒業後さらに中国語を学ぶため南京大学海外学院に一年間留学したという著者のユニークさと、ごく最近の南京事情が日常生活に即して綴られているという内容の魅力にひかれて、すぐ東京の出版元へ電話注文した。年末多用の中ながら、手にとってみると面白く読みやすいので、思わず一

気読みしてしまった。紫金草合唱団南京大学音楽会(06.3.27)のことも取り上げられ、「紫金草物語」の演奏の中で、中国人の役で「日本鬼子(リーベンクイズ)！・・・」と中国語で叫ぶ一人の団員の迫りある朗読が会場を圧した場面が活写されている。その団員の名が藤後博己とあとで知ったと書いてある。わが大阪府連合会長で紫金草合唱団長の藤後さんの活躍が目につく。2001年の最初の南京公演により、南京市民の日本人に対する積年の敵意が大きく変わっていったという話も紹介されている。(南

京事件七十周年の昨年十二月十三日には同合唱団が招かれ特別公演)著者が南京大虐殺の生き証人の一人、劉志誠(九一才)と面会したとき、相手が日本人だと知った劉さんが号泣して、しばらく質問にも答えられなかった場面の文章には胸が痛んだ。

仙洞田さんの体験談は、中国の生身の個人一人一人のくらし、思い、考え方など、日本人一人一人との違いを見出す驚きと相互理解・共感の可能性を見つける喜びにあふれている。日中友好の本質を考えさせられるすばらしい本だった。



一言年頭のあいさつにかえて。

日中友好の本質を考えさせられるすばらしい本だった。

一言年頭のあいさつにかえて。

日中08春のつどいご案内

日時: 2008年2月24日(日) 午後1時〜3時
会場: 中華料理・楓林閣(ふうりんかく)
(阿倍野アポロビル・9階) 06-6649-1055
参加費: 3000円(要予約)
福引もあります。誘い合ってご参加下さい
連絡先: 大阪府連06-6372-8131

大阪府連合会・第八回常任理事会

梅田章二さんを推薦
ムダ・不正ゼロ・くらし優
先へと大阪府知事選挙で連日奮闘している、庶民派弁護士・梅田章二弁護士を、九日の常任理事会で、国際友好と平和に寄与する立場から推薦を決定しました。
一月九日・日本中国友好協会

第十七回中国共産党大会に見る

信用不安の広がり科学的価値観

株安・ドル安に直面している中で、中国の世界戦略はどうなのか。アメリカの低所得者向け住宅ローン（サブプライムローン）に端を発して世界の銀行の信用不安がひろがっています。日本も中国も金融リスクを負わされますが、もともとバブルがささやかれていた03年からはじまっています。低所得者に五

年間は低利で融資し、五年後は利息が大きく跳ね上がり、たちまち支払いが滞り破綻寸前の状況です。このローンを証券化して世界の銀行に売り出し、儲けのために群がった銀行は、手ひ

（土井一正さんのレポートです）
その夜は、南京曉庄学院（師範大学）で交流演奏会が行われた。この大学は中国で初めての師範大学で、多くの優秀な先生を輩出しているとのこと。歌の舞台となった当地での合唱では、日本人として中国の人々に心からメッセージを伝えるの思いがわいてきて、歌にも力がこもる。学生側も熱烈歓迎を思わせる舞踊、合奏など多彩な演出を用意していて、大変感動した。

上海では、上海師範大学と交いう平和の歌をもつて中国へやっ流を行った。欧米による主権侵襲の歴史を背負う国際都市上海は、2010年の万博開催に向けて、建築ラッシュで、地下鉄もどんどん伸びている。大学は市内中心部から四十分ほどの郊外にあり、広大な敷地に新しい建物が見える。古都の雰囲気を残す南京の大学とは違う。大学側の出し物も、教師が中心となっ

文では、「二度と悲惨な戦争を歓迎ムードはなかったが、孫曼

に、小泉内閣が公的資金でドルを買わされ、ドルの外貨準備高は百兆円をこすまでに膨れ上がりました。ドル安が進めば進むほど日本国民の財産の損失は増え続けます。中国も同様に多額のドルを抱えていますが、それらのリスクを見据えた金輸政策を推進中で、今世界で一番元気が市場です。沢山のドルを抱えて

赤字』を日本が支え続けるため

（常任理事 松原弥寿夫）

盧溝橋事件・南京事件七十周年 『日中十五年戦争』のパネルを展示 8月



淀屋橋で七・七行動・盧溝橋事件七十周年・不再戦平和を訴える 7月



第56回全国大会大阪で開催、府連第53回大会開く 5-6月



「中国はいま何を考えているか」講演と春のつどいを開催 3月



中国残留孤児裁判 世論の批判受け政府も自立支援策を実施 12月



きりえで創る「年賀状・干支色紙」講習会を開きました 11月



「太極拳まつり」202名が30を超える表演 10月



3年目を迎えた、尼崎市・国際交流協会主催の多文化ふれあいデー 3月



2007年・府連行事と文化活動